第３回（仮称）第３次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会議事録

- 開催日時　　平成２０年１月２１日（月）午後２時～３時３０分
- 開催場所　　１６Ａ会議室
- 出席委員　　１１名（別紙１のとおり）
- 会議の公開・非公開の別　　公開
- 傍聴者　　１名
- 議事

(1)報告事項

これまでの策定作業の経過について

(2)協議事項

① 提言（案）について

② 計画の素案について

(3)その他

- 発言の要旨

① 提言（案）について

廣瀬会長	この提言の後半部分にみなさんの意見が書かれていますが，傾向としては，地域・地元という言葉が発言の中で多用されていて，「まずは地元や地域である」という意見が色濃く出ている。宇都宮市における教育や学習機会の拡大を前提としながら，それぞれの地域や地元を，伝統や教育力を含め大事にしていこうというのをスローガンとして掲げている。
山島委員	提言（案）の，「本市の生涯学習の状況から・・・」の文章が分かりにくい。「生涯学習の状況から今後必要な取組みのほか・・」ではなく，「生涯学習の状況や，今後必要な取組み，人間力や家庭・地域の教育力の向上などの課題への対応について検討」というのが正しいだろう。
髙田委員	１ページ「施策の構築について」の中で，「うつのみやの花火大会を若者たちが・・地域のよさに気付いて，魅力を発散できる」とありますが，これは「発見できる」と訂正してほしい。
山島委員	１ページ下から２番目「子供が地域の・・・に入ってくる所ですが教育的側面でやってほしい」というのは，日本語的でないので「教育的側面に配慮して・・」という言葉に直したほうが良い。
松江委員	一つのセンテンスが長い。例えば，提言（案）の３行目「現代社会において・・・価値観の多様化」は，「価値観が多様化しています」と文章を細かく区切ったほうが分かりやすい。 ２ページ「市民の主体的な学習活動の促進」で，「学習者ではない人」という言葉が気になった。生涯学習は，全ての人が学び続けていくという趣旨だから，「主体的に学習に参加している人と，していない人との交流」というように文章を変えたほうが良い。

廣瀬会長	日本語として不適切な部分は，私の方で事務局とともに直し，教育長に提言させていただきたい。

② 計画の素案について

廣瀬会長	今までの懇談会の提言に基づき「地域教育」という言葉を核にして生涯学習を進めていくという（事務局の）提案になっている。 「地域教育」という言葉は，もともと学校教育の用語で，学校での教育内容を，地域の人たちの意見を取り入れて決めるという「学校が地域社会と連携して行う教育」という意味であった。戦後の教育運動として行われていた頃の「地域教育」と，現在のそれは，意味が異なっているのだと理解していただきたい。 素案にある地域教育とは「地域で学ぶ・地域で育てる・地域をつくる」教育であり，これが宇都宮市のスタンダードになる。簡単に言えば，地域を大切にする教育だと考えれば良い。 地域ぐるみの教育，地域の課題を解決する教育，地域文化を支える教育，地域文化をつくる教育，地域の良さを見つける教育・・・など，今までの懇談会でみなさんが発言してきたことが，素案の「地域教育」という言葉に象徴されている。 計画のキーワードを，「生涯“学習”」という考え方から，社会教育がベースの「地域“教育”」に戻し，教育という言葉を前面に出した背景には，教育の営みが持つ性格を象徴すると同時に，大人が子どもに対して責任を持って教育するという考え方があるのだと思う。地域教育という言葉にこめられた，大人社会が子どもへの責任をどう果たすかということが，この計画に書かれていると思われる。 社会教育をベースにしながら，学校との連携や，学校を中心としたコミュニティの形成，学校と地区センターが行っている様々な学習活動を地域ぐるみで行っていくという思いが表れている。
伊藤（昭）委員	東生涯学習センターで生涯学習コーディネーターとして成人向け講座「ふれあい塾」の企画をしたり，市民大学の企画運営をしたりと，自分も狭い範囲ではあるが生涯学習に取り組みつつある。 しかし，わたしたちのレベルからすると，地域教育という視点で講座を企画してはいない。地域教育という立場で講座の企画運営をするべきだとは思うのだが，講座を企画するとき，地区についてあまり意識せず，宇都宮市全体のことを念頭においている。 皆，学校区を地域として捉えているが，地域教育の具体的な概念が全く分からない。この計画を読むと，家庭の教育力・学校との連携などにおいて，地域の力が必要になってくるとは思うのだが，混沌としていてよく分からない。もっと計画を理解しやすい書き方にして欲しい。
廣瀬会長	地域の範囲について，どう捉えたか。
事務局	まず一つは，39 のまちづくりの単位としての地域。もう一つは，そ

れが集まった宇都宮市という大きな地域。その二つを地域として捉えている。
　現在，地区市民センターが 18 館ある。それらは，もともとの公民館で，それぞれ一つの地域というイメージ。市街地には中央，東西南北の生涯学習センターがあるが，ここにはさらに，小学校区に一つずつ分館があり，それらを足すと 39 になる。市街地の５生涯学習センターの中に重なるように 25 の分館があり，それを拠点とした 39 のまちづくり協議会がある。

伊藤（昭）委員　生涯学習センターやコミュニティセンターなどで，生涯学習に関わる講座などを運営することが，地域教育だと考えて良いわけですね。

若度委員　「地域」については，宇都宮市全体を地域と呼ぶ場合もあり，概念によって変化する。私たちも，小学校区を単位としたり，もっと広い範囲では中学校区とする場合もあり，いろいろ使い分けている。
　学校を単位とする場合，現在は公立の学校を基準に考えているが，私学がだんだん増えてきており，国立の学校もあるので，ＰＴＡ単位が地域という概念は崩れていくこともあると思う。

廣瀬会長　39 という地域の捉え方だけではなく，柔軟に地域というものを捉えていかなければならない。

髙田委員　私は，「家庭でしつけられて，学校で学んで，地域で育って」という３拍子をアピールしている。学校にとって，一番小さな地域の単位は小学校区であり，それがいくつか集まったエリアが中学校区，それから宇都宮全体で大きな地域と捉えられる。それぞれの地域が自分の地域として自覚を持ち，より開かれた地域を作っていけば地域同士の連携・融合が進んでいくと思う。

櫛渕会長　私たちの団体は地域の集まりの団体なので，計画の中の「地域」とは 39 のセンター単位の地域であると認識しており，われわれのような団体が先頭に立って地域に貢献していくべきだと思うが，計画の中で実行が難しいと感じたものがいくつかあった。
　20 ページの『商店街まるごと体験事業の実施』について，10 年前程までは，このように子どもを教育するということもできたと思う。昔は，夕方になると子どもが近所の八百屋の配達などを手伝い「ありがとうございます」，「こんにちは」など，あいさつを自然に覚えることもできた。しかし，今の時代の流れは商店街が次々と閉店している状況であり体験事業の実施は難しいと思う。

髙田委員　中央小学校では曲師町の商店街で，商店街の一日体験を行っている。地域任せでなく，５，６年生の授業に取り入れて児童と商店街の約 16 店舗の人とが触れ合う機会を作っている。
　商店街には中央小学校出身の人も多いが，子どもたちは今まで，すぐ近くにあるのにお店の人の顔を知らないことがあったが，体験をき

っかけに商店街に買い物に行くようになり，お店の人から名前で呼ばれるようになったりして，いい傾向だと思っている。
　商店街での体験は一日だけだが，総合的な学習の時間で事前に学び，体験後も学校でまとめをして来年につながるようにしている。学校と地域が一体となって子どもたちに自分たちの地域はいい地域なのだと実感させ，子どもたちが地域に根ざすよう育んでいる。

福田委員　ボランティア活動に携わっているが，例えば誰か歌をやっている人を紹介してほしいと頼まれた場合，それを地域の人から探すためのパイプがなかなか見つからない。今後，地域間を結ぶつながりができ，地域の中の学び・地域の外の学び・地域間の学びの３つがより効果的になっていくといいと思う。

廣瀬会長　ＮＧＯやボランティア団体で地域の自治体とつながって活動しているところは少ない。そこを繋げていくことも，これからの地域教育で重要なことだと思う。

大塚委員　娘が通う私立高校の取り組みを見ると，学校ではあるが，一企業として地域にＰＲをしている。公立・私立を含め，校長先生の裁量で地域への窓口を広げるＰＲができるようになれば，もっと地域の評価が得られると思う。人口も関係するのだろうが，東京に近い場所の学校ほどＰＲが上手いと感じる。

廣瀬会長　学校が開かれるためには，地域が開かれていることが必要。地域を信頼できるかどうかが，学校が開かれるための大きな要素だと思う。

山島委員　２３ページの施策６「ふるさとの教育の推進」で，宇都宮のことをみんなが知らなければ愛着を持てないとある。
　これを含め施策には地域事業が非常に多いが，それを実際，39 の地域で行っていくとなるとマンパワーは足りるのか心配だ。これには教育委員会の努力も必要だろう。マンパワーが足りない中で，どう地域事業を進めるのか手順を考えるべきだ。
　また，様々な取組みをしようとしても情報がないという現状があるので，教育委員会が中心となりそれをうまくまとめるべきなのだが，それが施策には入っていない。個々の単位でやるのではなく，全体の情報をまとめれば様々な取り組みもしやすくなるので，それを施策に取り入れて欲しい。
　５ページ「各主体に期待される取組み」に大学等高等教育機関が入っているが，具体的な施策が書かれていない。うちの大学は場所もいいし何かやろうと思っているので，役所はもっと大学に期待して欲しい。

伊藤（昭）委員　施策で「市民大学の充実」という項目があったが，充実させるために何をやるかという部分で，是非，われわれを参画させてほしい。そうすれば，役所だけのマンパワーだけでなく，本当に市民協働の生涯

学習活動が出来るのではないだろうか。
　また１３ページ「今後は，市民が地域社会の課題について学ぶとともに，課題の解決に向けた活動に参画していけるよう，参加型の学習により，実態に即した理解や資質の向上，活動者同士の連帯促進につながる学習機会を提供します。」という趣旨に則って，「ふれあい塾」という講座を開講しているので，ぜひ見学して，足らないことがあったら指導して欲しい。活動拠点や，市民大学講座などの現場に来て，実際に見てもらえると具体的な施策が発見できるのではないだろうか。もう少し現場に出て我々市民と一緒になってやってほしいし，われわれにも任せてほしいと思う。

廣瀬会長

　生涯学習コーディネーター講座では，講座を修了した市民が，いい講座を開き，多くの受講者を集めているという話を聞いている。

伊藤（昭）委員

　広報をどうするかというのは非常に大きな柱である。同じ講座でも広報紙でどの程度紹介するかによって市民の反響が全く違う。
　今回，東生涯学習センターの講座に 70 人の市民が集まったが，その半数以上が初めての受講者だった。職員の話では，今まで文字数の関係で広報紙に細かい情報が載っていなかったが，今回は具体的な講座のテーマが掲載されたことの効果との事。広報活動は非常に重要な手段であると思う。

塚田委員

　子ども会は，先ほど話に出た 39 地区がベースで，高校生のリーダースクラブは宇都宮市を一つの地域として形成されている。
　新規事業について，具体的な内容が分からないところがあるが，１９ページ「子どもの『遊びの時間・空間・仲間」の創出」は，10 数年前から言われていることなので，継続事業に重複していると思う。
　素案には入ってないが，概要の基本目標に具体的な数値が入っている。100 パーセントなら分かるが，40 パーセントとか 48.7 パーセントというのは見栄えがよくない。パーセンテージで，市民の割合という言葉を使用しているのが気になる。これはアンケートの回答者の割合なので，それを市民の割合としていいのだろうか。市民とは，赤ちゃんから高齢者まで含むもので，学習に参加する層という意味ではないから，言葉をもう少し考えたほうがいい。

山島委員

　計画では具体的な数字を出さなければいけないが，目標とする数値が 48．７％というのは不自然。

事務局

　目標については示しにくいものだが，今までは一つの施策事業に対して実質的な回数目標を提示していたが，この計画を作り，このような目標に向かってやることによって成果が分かるということから，数値のパーセンテージで目標を出させていただいた。

綱河副会長

　数値目標を出すということに関しては賛成。ただ，この数値設定はやはり不自然なので約６割，約４割という書き方にしたほうが良い。

第５次総合計画の目標について達成度の指標として，市民満足度を目安とするという記事があった。アンケートをとった上で今回の目標の数値設定ということになっているが，具体的にどのようなものが市民満足度として妥当かどうか事務局には考えて欲しいと思う。

私が住む豊郷地域は市民体育祭で総合優勝２連覇している。過去 10 年間でも６，７回優勝しており，我が地域はすばらしいと思う。

我が地域だけでなく，下野新聞に掲載されていたがサスティナブル（持続可能性）度調査，人口 50 万人以上の都市部門で，宇都宮市はナンバー１だった（ちなみに全国では 460 市中 12 位）。それは，それぞれの土地の環境，経済の豊かさ，社会安定の全体バランスの調査であり，いろいろな意味で宇都宮市はバランスがとれた都市であるといえる。

いろいろな立場，分野で市民にいかに誇りをもってもらうかだと思う。

廣瀬会長　それでは素案については，皆さんご意見いただいたようなので，この後，先ほどの提言の修正案を教育長にお渡したいと思います。

廣瀬会長から伊藤教育長へ提言の提出

別紙　1

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席者名簿（平成 20 年 1 月 21 日）

№	氏　名	該当号	備　　考
1	髙田　實	1	宇都宮市小学校長会　会長
2	櫛渕　澄江	1	宇都宮市地域婦人会連絡協議会　会長
3	塚田　栄一	1	宇都宮市子ども連合会　会長
4	若度　哲久	1	宇都宮市 PTA 連合会　会長
5	松江　比佐子	1	チャイルドラインとちぎ　副理事長
6	◎廣瀬　隆人	1	宇都宮大学　教授
7	○綱河　秀二	2	市議会議員
8	山島　哲夫	2	宇都宮共和大学　教授
9	伊藤　昭一	3	公募委員
10	大塚　知子	3	公募委員
11	福田　有見子	4	公募委員

◎：会長，○：副会長